PART2 助動詞の接続

★**【接続】**（＝何形にくっつくか。＝上が何形か。）

接続	助動詞
未然形	る・らる・す・さす・しむ・む・ず・むず・じ・まし・まほし
連用形	けり・き・つ・たり（完了）・ぬ・けむ・たし
終止形 ※ラ変型＝連体形	めり・らむ・らし・まじ・なり（伝聞推定）・べし
サ変**未**然形 **四**段**已**然形	り
体言・連体形	なり（断定）
体言	たり（断定）
体言・連体形 助詞「の・が」	ごとし

〈Memo〉

第4講　PART2　確認問題

①　空欄には動詞「住む」が入る。入る形として最も適当なものを、次の中から選べ。

東の方に［　　］べき国求めにとて行きけり。

ア　住ま　　イ　住み　　ウ　住む　　エ　住むる　　オ　住める

②　傍線部の活用の種類・活用形として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

男もす<u>す</u>なる日記といふものを、女もしてみんとてするなり。

ア　サ行上一段活用・連体形　　イ　サ行四段活用・終止形　　ウ　サ行四段活用・連体形

エ　サ行変格活用・終止形　　オ　サ行変格活用・連体形

③　「涙さへなどとまら［　　］らむ。」の空欄には助動詞「ず」が入る。入る形として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ざら　　イ　ざり　　ウ　ざる　　エ　ざれ　　オ　ず

④「なほえ絶えてあるまじかりける。」の文法的な説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ラ変動詞連体形＋助動詞連用形＋助動詞
イ　ラ変動詞連体形＋形容詞連用形＋助動詞
ウ　ラ変動詞終止形＋助動詞連用形＋助動詞
エ　ラ行四段活用動詞終止形＋助動詞連用形＋助動詞
オ　ラ行四段活用動詞終止形＋形容詞連用形＋助動詞

⑤　傍線部の活用形が異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　中将などはすきぬべかるめり。
イ　この人にまさるべからず。
ウ　風吹けば沖つ白波たつた山夜半（よは）にや君がひとりこゆらむ
エ　春過ぎて夏きたるらし白たへの衣ほしたり天の香具山

第4講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

① 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。「べき」は助動詞「べし」で接続は終止形。「住む」はマ行四段活用動詞であり、終止形は「住む」。よって、ウが正解。

② 傍線部の下の「なる」は伝聞推定の助動詞「なり」で接続は終止形。傍線部「す」はサ行変格活用動詞の終止形。よって、エが正解。

③ 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。「らむ」は助動詞「らむ」で接続は終止形または、ラ変型活用語には連体形。ここでは「ず」の連体形「ざる」が入る。よって、ウが正解。

④ 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。傍線部は「ある／まじかり／ける」と品詞分解でき、まず「ける」は助動詞「けり」であり、連用形に接続する。よって「まじかり」は連用形である。また、「まじかり」は助動詞「まじ」。「まじ」は終止形または、ラ変型活用語には連体形に接続する。「ある」はラ行変格活用動詞「あり」の連体形。よって、アが正解。

⑤ 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。傍線部の下はいずれも、終止形またはラ変型活用語には連体形に接続する助動詞。アは助動詞「べし」。ラ変型活用語なので傍線部の下の「めり」とは連体形で接続する。イはラ行四段活用動詞の終止形、ウはヤ行下二段活用動詞の終止形、エはラ行四段活用動詞の終止形。よって、アが正解。

〔解答〕

①　ウ

②　エ

③　ウ

④　ア

⑤　ア